



令和 8 年度放射線安全取扱部会年次大会 年次大会へのお誘い



令和 8 年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員長 高橋 和弘

令和 8 年度放射線安全取扱部会年次大会(第 67 回放射線管理研修会)を令和 8 年 10 月 22 日(木)、23 日(金)の 2 日間、新幹線から降りて直ぐの福島駅西口から徒歩 5 分にあるコラッセふくしま(福島県福島市三河南町 1-20)で開催いたします。

今大会のメインテーマは「不易流行～震災から 15 年、未来へのエール～」です。「不易流行」とは、江戸時代の俳人松尾芭蕉が『奥の細道』の旅の間に体得した概念で、「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」と説き、不易(本質)を極めなければ基礎は立たず、流行(変化)を取り入れなければ新しい進展はないとしたそうです。私たちの放射線安全取扱の分野でも譲れない本質的な考え方を維持しつつも、変化する現実に応じて最適な答えを見出して行くことが重要だと考えて、福島原発事故からの復興の中で育まれた経験に注目しながら、未来を考える一助になればと期待しています。

大会 1 日目は、4 階多目的ホールにて、部会総会、放射線安全管理奨励賞の表彰式、2 つの特別講演、1 つのシンポジウム、そして中会議室 401・小会議室 402 では、ポスター発表と機器展示コーナーを 1 つの空間にて開催します。また、小会議室 403 には相談コーナーを設けます。

特別講演 I は毎年恒例の原子力規制庁による「最近の放射線規制の動向」についてご講演いただきます。

シンポジウムは企画専門委員会企画として「不易と流行の間で電離放射線管理の原点と変革を共に考える」をテーマに、厚生労働省、日本非破壊検査工業会及び東京大学それぞれから専門家をお招きして、令和 8 年 4 月 1 日施行の電離則改正をふまえてご講演をいただきます。電離則改正の背景や、利用者への特別教育を含む管理の実例等をご紹介します。

き、「不易を守りつつ、流行を柔軟に取り入れる」という観点から、エックス線装置の利用に関する理解を深める機会といたします。

特別講演 II は「震災直後における福島県教育委員会の放射線教育について」をテーマにして、阿部洋己氏(元松陵中学校校長)より、子どもたちの将来を考えながら積み上げてきた放射線教育はどのようなものだったのか、そこに至る過程にはどのようなものがあつたのか、15 年経った今だからこそ聞いてみたい、その経験を語っていただこうと思います。

大会 2 日目は 2 つの特別講演を行います。

特別講演 III は「海へ向き合う科学—ALPS 処理水をめぐる分析と生物研究」をテーマに、まず、日本原子力研究開発機構の田中康介氏より、第三者評価機関の立場から ALPS 処理水の精密分析にまつわる現状とその最新知見についてご講演いただき、続いて ALPS 処理水を希釈した海水を用いた海洋生物飼育の取組みとその成果について、東京電力の柴田敏宏氏にご講演いただきます。

特別講演 IV は「福島第一原子力発電所事故後の放射線管理から学ぶ～昨今の危機災害対応のポイントとその限界点」をテーマに、福島第一原発廃炉現場の医療事情を紹介すると共に、国際情勢や国の施策に間接的に影響を受けている状況を、地域の医療者の視点から福島県立医科大学の長谷川有史先生よりご講演いただきます。

芭蕉が東北の地を旅して得た「不易流行」の精神に思いを馳せながら、福島の地で放射線をめぐる管理・利用について皆さまと共に考える機会となれば幸いです。実行委員一同、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

(福島県立医科大学)

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

角山雄一(委員長)、荒木俊哉、恵谷玲央、大谷環樹、平木仁史、丸山百合子